

# 一般交通量調査について 旭川支店からの報告

旭川支店では主に道路調査(各種交通量調査)、測量調査を行ってきましたが近年においては、旭川近郊での設計業務に対しても機動性を重視した体制で業務を実施しております。

旭川支店からは今回、業務実績が豊富で道路交通センサスの1つでもある一般交通量調査の一部について紹介します。

## 一般交通量調査とはどんな調査?

一般交通量調査とは、細かく分けて“道路状況調査”“交通量調査”“旅行速度調査”に分かれます。今回は、みなさんが運転中などに目にしたことがあると思われる“交通量調査”について紹介したいと思います。

観光シーズンや通勤時、または高速道路の開通前後などに交差点や道路の路肩で、調査を行っている光景を見たことはありませんか?交差点で数人、椅子に座り、手元で何かを動かしている…。写真を撮っている…。何かの取締り?何をしているの?と思われる方もいらっしゃると思いますが、実は交通量調査(車の台数を計測)を実施しています。当社では調査中の事故防止や周辺住人とのトラブル防止のため、調査地点ではセーフティコーンの設置や調査員への腕章着用の義務化により不信感の軽減や安全対策を実施しています。

これらの調査は、自動車の利用実態、道路交通の形態などを調査し、今後の道路の計画、建設、維持修繕その他の管理などについての基礎資料を得ること目的にしています。

腕章



## 調査結果はどう活用されているの?

調査結果は道路の改良・改善の基礎資料として利用され、生活環境を良くしています。みなさんも日々の自動車生活の中で走行中に道路状況の変化に気付いたことはありませんか?道路の白線が変更(右折レーンの新設など)されただけでも変化(違和感)を感じるがあると思います。

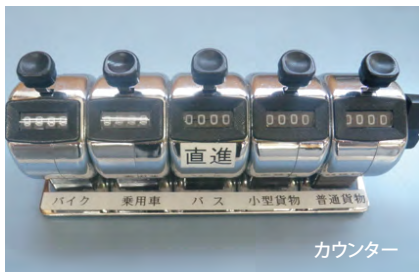
また、大型商業施設等の開設、高速道路の開通によっても生活環境が変化し、交通状況も変化します。それに合わせて調査を実施する事により実態を把握し、ニーズにあった道路環境とするためにも調査を実施しています。

身近な改良・改善点について紹介します。

- 交差点が整備され、事故が減った。
- 右折レーンが付加されて、渋滞が緩和された。
- バイパスができたことにより、移動時間が短縮された。
- 橋梁(跨線橋、歩道橋等)が設置された。
- 信号のサイクルが変わった。 など

## 交通量調査の調査種類について

交通量観測には、人手観測、交通量常時観測、簡易型トラフィックカウンターなどがあり、目的に応じて適切な調査方法を選定し、調査を実施しています。



みなさんの見ている手元の正体です。

調査時間は12時間を基本とし、主に交差点での交通流動(右折、左折、直進)、車種分類(二輪車、乗用車、小型貨物車、バス、普通貨物車)、歩行者について詳細な調査が実施可能です。

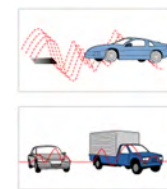
### ▼簡易型トラフィックカウンター

路面に本体を布設し、磁気方式(車両が通過する際に発生する磁力線の変化を検知して交通量の観測を行う)により交通量を観測します。

### ▼人手観測

人手観測は、観測断面を通過した自動車を目視で捉え、カウンターと呼ばれる“数取器”で交通量を観測します。これが、

交通量常時観測装置と同様に連続日観測、24時間の交通状況を必要とする場合にはコストメリットも大きく有効ですが、交差点での交通流動までは観測できないため、主に郊外での単路調査時に設置されています。調査中は設置箇所の手前で看板にて告知されていますので運が良ければ見れます。(見た目は、ただの黒いマットです…)



車両通過時の磁力線変化を検知し測定



簡易型トラフィックカウンターの設置

## 調査写真の紹介

調査結果は時間毎の台数(数値)で整理されますが、数値だけでは状況把握が難しいため、渋滞状況や事故による交通状況の変化を写真で整理しています。みなさんが何の写真を取っているのだろうか?と思っている被写体は、実は交差点と自動車なのです。

近年では、地上からでも渋滞状況の撮影は可能なのですが、渋滞長を上空から広域で撮影可能なスカイキャッチャー(当社所有)を用いた撮影も行っております。ここでは、観光シーズンに撮影された富良野市の新富交差点の写真を紹介します。

